時事新報

驛遞局認可

明治十八年五月四日（西暦一千八百八十五年）月曜日

第九百五十九號

日曜日休刊

東京圖書館

敍任

○明治十八年四月七日

敍勳三等賜旭日中綬章　步兵大佐　兒玉源太郎

全　從五位勳四等　全　西寬二郎

時事新報

米國ノ信義

北米合衆國ガ東洋諸國ニ對シ就中我日本ニ對シテ信義ノ交ヲ爲スハ今ニ始マルヿニ非ズ我日本ガ開國以來米國ノ厚意ヲ負荷スルハ一ニシテ足ラザルナリ今其一二ノ例ヲ擧グレハ前年日本ガ始メテ國ヲ開キテ外國ト交際ヲ初ムルニ當テ第一ニ和親通商ノ條約ヲ取結ビタルハ即チ米國ニシテ當時其條約ノ文案ヲ起草シタルハ米國ノ領事（後ニ公使）たおんせんど　はるりいす氏ナリシガ當時日本ノ有様ヲ見ルニ民間ノ志士ハ毫モ世界ノ形勢ヲ知ラズ唯一心ニ鎖攘ノ議論ヲ主張シ當局者モ其内心ニハ開國ヲ好マザレ共之ヲ拒絶スルノ手段ナキ僅ニ據所ナク之ヲ許シタル位ノヿナリシカバ固ヨリ外國交際トハ如何ナルモノニシテ條約トハ如何ナルヿヲ約定スルモノナルカモ知ラズ其状恰モ深閨ノ處女ガ不意ニ稠人廣坐ノ中ニ呼出サレテ座作進退ニ當惑スルガ如クナリシ故苟且ニもはるりいす氏ヲシテ今日歐洲諸強國ガ未開ノ邦國ヲ遇スルノ筆法ヲ以テ當日ノ日本ヲ遇スルノ意アラシメタランニハ其條約中ニ何程日本ニ有害不利ナル條款ヲ加フルモ甚ダ容易ナリシヿナラン然ルニ氏ハ其條約ニ於テ僅ニ治外法權ト協議定税トノ二款ヲ加ヘテ一般國際ノ條約ト區別シタルノミニテ敢テ甚シク日本ノ國利國權ヲ損害スル條項ヲ其中ニ插入セザリシカバ其後他ノ國々ガ來リテ條約ヲ結ブニ及ビテモ亦皆米國ノ例ニ效ヒテ條約ヲ結ブヿトハナレリ是畢竟米國ノ人民ヲ代表スル其外交官ガ日本ニ對シテ信義ヲ盡シタルノ致ス所ナリトハ我國ノ識者ガ夙ニ承認シテ窃ニ其厚意ヲ感謝スル所ナリ又開國ノ初ニ當リテハ我國ノ當局者モ外國ノ交際ニ慣レズ民間ニハ外國人ヲ嫌惡スルノ風盛ニシテ鎖攘ノ議論動モスレバ再燃セントスルノ勢アリシ故諸強各國ガ治外法權協議定税ノ二特許ヲ得テ自ラ防護スルノ具トナシタルモ當時ノ事情ニ於テハ強ヂ無理ナリト云フベカラズト雖ヒ其後年數ヲ經ルニ隨ヒ日本人モ追々外國ノ交際ニ慣レタルノミナラズ一般ノ人心ハ前日外人ヲ惡ミテ之ヲ逐ザケタルニ引替ヘ益々愛シテ之ニ近付カントスルニ至リタレバ此等ノ特許モ今ハ外人ニ取リテ不用トナリタルノミナラズ日本ノ方ヨリ見レバ此等ノ特許ヲ外人ニ與ヘ置クガ爲メニ獨立國ノ權利面目ヲ傷ケラレ政治上商賣上ノ利益ヲ害セラレテ一方ナラザル損害ヲ被フルヲ以テ我政府モ疾クヨリ之ヲ取戻サンヿヲ望ミ與國ノ輿論モ亦異口同音ニ舊約改正ノ必要ヲ論スルニモ拘ハラズ舊盟諸國ハ如何ナル故カ恰モ自ラ其耳ヲ塞ギテ之ヲ聽カザルモノヽ如ク諸テ其事モ次第ニ遷延スル間ニ米國政府ハ獨リ他ノ國々ニ先チテ我條約改正ヲ承諾シ去ル千八百七十八年即チ我明治十二年七月ヲ以テ華盛頓府ニ於テ同國々務卿ゑゔあーつ氏ト我特命全權公使吉田清成氏ト相會シテ改正條約十條ヲ議定シタリ尤モ此條約ニ於テハ從前ノ協議定税法ヲ全廢シテ日本ノ外國貿易ニ關スル諸規則ヲ制定スルノ權利ハ獨リ日本政府ニ屬スルヿヲ認メタルノミニシテ治外法權ノ一事ニ付テハ何等ノ改正モナク且ツ此條約ハ一種ノ約束上（コンジシヨナル）ノ條約ニシテ自他ノ締盟諸國ガ之ニ均シキ條約ヲ結ビ且ツ之ヲ現行スルニ至ルマデハ實施セザルノ約束ナレハ我輩ノ望ニ滿タザル所甚ダ多シト雖ヒコレ等ノ不滿足ハ姑ク措キ兎ニ角ニ他ノ國々ガ躊躇シテ未ダ我願意ニ從ハザル間ニ先ンジテ日本條約改正ヲ承諾シ不充分ナガラモ特許ノ一半ヲ返却セント云ヒタルハ我輩ガ米國人民ニ向ヒテ其厚意ヲ感謝セザルベカラザル所ナラン何トナレバ米國ガ當時治外法權撤去ノ一事ヲ斷行セザリシハ敢テ故ラニ損害ヲ日本ニ加ヘントスルノ惡意ニ出タルニアラズ米國ノ本意ハ唯一日モ早ク此不正ナル特許ヲ拋棄シテ日本ノ願意ニ從ハントスルニ在ルモノヽ如クナレバ一度ビ日本ノ社會上政治上ノ現狀ニ於テ最早此特許ヲ私スルノ必要ナシト見レバ明日ニモ協議定税ノ特許ヲ返還シタルト同一ノ精神ヲ以テ再ビ他國ニ先チ治外法權ヲモ返却スベケレバナリ又米國政府ガ一昨明治十六年ニ於テ國會ノ決議ヲ經テ去ル元治元年下ノ關一件ノ爲メ徳川政府ヨリ英佛米蘭ノ四國ニ拂渡シタル償金三百萬弗ノ内米國ノ取前ニ係ル七十八萬五千弗ヲ返却シタル一事ノ如キモ亦我輩ガ窃ニ米國ノ厚意ヲ感荷スル所ナリ尤此事ニ付テモ我輩ガ充分ノ希望ヲ云ヘバ獨リ其元金ノミナラズ元治元年ヨリ明治十六年ニ至ル迄凡二十年ノ間ニ蓄積スベキ利子ヲモ合セテ返却スルコソ當然ナレト云フベキ所ナレドモ是亦他ノ三國ガ米國ノ義擧ヲ見ナガラ默シテ其元金スラ返サヾルニ比スレバ殆ド同年ノ談ニ非ズト云フベシ以上擧ル所ノ二三ノ例ハ米國ガ日本ニ對シテ信切ナル明證ナレ共此外ニモ往々ニ世間ノ耳目ニ掛ラザル事ニシテ米國ガ日本ノ當路者トナリ常ニ日本ノ開化進歩ヲ補助シタル厚意モ亦我輩ノ忘ルベカラザル所ナリ右ノ如ク米國ハ一國民タル日本人ニ對シテ常ニ信義ヲ盡シ厚意ヲ表スルニ加ヘテ一個人タル日本人ニ對スルニモ亦務メテ其權利々益ヲ尊重シテ之ヲ忽ニセザルモノヽ如シ其一證ニハ本日ノ雜報中ニ掲載スル永井重助ノ損害償還ノ一事ヲ見ルベシ固ヨリ他人ノ財産ヲ毀損シタル上ハ其毀損者ハ一個人ナルト一政府ナルトヲ問ハス被害者ニ向ヒ相當ノ償ヲ拂フベキハ當然ノ事ニシテ米國政府ガ之ヲ拂ヒタリトテ別ニ稱賛スベキヿニ非ザレ共國ト國トノ交際事ヲ權數ト詐術トニ由ルノ今日ニ在リテハ此等ノ瑣事ハ捨テヽ之ヲ顧ミザレバトテ敢テ米國ノ非道ヲ咎ムルモノモナカルベキニ米國ノ人民ハ恰モ與國人民中ニ一夫モ其所ヲ得ザルモノアルハ自國ノ恥ナリト思ヘルモノヽ如ク瑣事ナリトテ敢テ之ヲ等閑ニセズ遂ニ國會ノ決議マデモ煩ハシテ其要償ニ應スルニ至リタルハ是亦米國ノ義擧ナリト稱賛セザルベカラズ

米國ガ右ノ如ク獨リ諸國ニ率先シテ信義ノ交際ヲ勉メ恰モ國交際ノ改良者ヲ以テ自ラ任スルハ我輩ノ見ル所ヲ以テスルニ全ク其人民ノ純粹ナル義侠心ヨリ發シタル所爲ニシテ一毫モ自ラ爲ニスル所アリテ然ルニアラサルガ如シ然レ共其結果ヲ考フルトキハ米國ノ利益トナルモノ一ニシテ足ラザルハ亦疑フベカラズ其故ハ魚心あれば水心ありトノ古諺ニ違ハズ人世ノ常体ニ於テ他人德ヲ我ニ施コセバ我亦他人ヲ德トスルハ東西古今ノ別ナク同一ナル人情ナルガ故ニ今多クノ締盟國中ニテ米國ガ取分ケ日本ニ信義ヲ盡スヲ見ナバ日本人民モ亦其割合ニ取分ケ米國人民ヲ親愛敬重スルハ自然ノ事ナルベシ其證據ニハ今日ニテモ日本人民ノ一般ハ何國ヨリモ米國ニ對シテ最モ親密ナル感情ヲ抱クヲ見ルベシ我人民ハ固ヨリ英佛獨露其他ノ國々ヲモ疎外スルノ念ナシ否啻ニ疎外セザルノミナラズ愛シテ之レヲ友トシ敬シテ之ヲ師トスルハ彼此ノ別ナシト雖モ其中ニモ米國ト云ヘバ何ヤラン一際心置キナキ心地セラルベシ例ヘバ今後雜婚ナドノ風習漸ク日本ニ行ハル、ニ至ルト何方ニモ關係ナキ者ガ同時ニ米人ト英人トヨリ其女ヲ娶ラント申出デラレタルトキハ他ノ事物ヲ同様ナリトスレバ英人ニ與フルヨリモ寧ロ米人ニ與ヘント云フハ一般ノ民情ナルベシト思ハル、ナリ固ヨリ一個人ニ就テ云ヘバ英人必ズシモ不信切ナラズ又米人中ニモ不信切ナル者モ多カラント雖モ我人民ヲシテ假リニモ米人ヲ親ムヿ英人ノ上ニ出デシメタル所以ハ從來米國ガ日本ニ對シテ取分ケ信切ナル効果ナリト云ハザルヲ得ズ政治上ニテモ商賣上ニテモ他人ノ信用ヲ得ルノ大切ナルハ我輩ノ多言ヲ須タザルヿナレバ米國人民ガ日本人民ヨリ特別ノ尊敬ヲ受クル所ハ兩間ノ間ニ起レル百般ノ事柄ニ於テモ亦他國ニ比スレバ特別ノ利益ヲ享有スベキハ疑ナキヿナルベシ語ヲ寄ス英佛及ビ獨露ノ人、我日本人民ハ決シテ恩仇ノ別ヲ知ラズ怨ヲ以テ德ニ報ヒントスルモノニ非ズ苟モ國交際ノ正道ニヨリ信義ヲ主トシテ來リ交ルヿ米國ノ如クナルモノアラバ我人民ガ之ニ對シテ特別ノ親愛ヲ表スルモ亦米國ニ對スルニ異ナラザルベシ

雜報

○小松宮　過般熊本鎭臺兵對抗運動御代覽として福岡縣下新田原へ御出張されし小松宮には來る九日山縣參議を始め先般隨行せし人々を芝公園なる紅葉館へ御招請して宴會を開かるゝよし

○米國政府の義擧　今を去ると十二年前明治六年の秋永井重助所持の和船順宮丸が或る海上（地名を脱す）に於て米國軍艦アシュウラット號に衝掛られ本船乘組人は一人の死傷もなかりしが船は直ちに沈没せり然るに此衝突は夜間の事なりし
しく己が船を乘沈めたる軍
く空しく二三年を過ぐる中
アシュウラット號なる由を
事の次第と其筋に訴出たる
の米國公使へ掛合ひ同公使
して其損害を償ふべき旨を
は如何なる事情ありしにや
バ其間に永井は先き持船を
たるを以て據なく所持の田
送り今は殆と生活の目當な
ビンガム氏は此事を等閑に
國政府に償却の事を催促せ
て永井れ要償金額と右衝突
案を議決したる時までの利
千弗と償却する事に議決し
て其旨を我外務省に通知あ

○露國公使及領事　露國
使領事を置くべしとの事
刊行の露國某新聞ょ此事
は我か東部亞細亞の境壤
烏蘇里州の移住民との間
るに拘らず從來我か國と
けり然るに日本國及英國
に派遣して公使館及領事
外務省ょ於ても今般該國
議と決し京城に公使館と
職務と代理せし在濟物浦
置すへしと云ふ」と見えた

○武官歸朝　兵事研究の
たる陸軍武官の内數名へ
りといへり

○海軍省　海軍大主計大
の通知付けられたり
免本職補富士山艦主計　淺間艦主計
免本職補淺間艦主計長　春日艦主計
免本職補春日艦主計長　富士山艦主計
中艦隊司令官附被差免
日進艦乘組被差免水雷
水雷局在勤被差免主計

○迎驛裁判陪席　判事
裁判所に於て第二期大津

○郵便路問合　擬て紙上
近日の内、江戸橋際なる
決定せしよし各地方より
名程にて該會議は本月廿

○山形縣鐵道　同縣下鉄
記載せしが又聞く處に據
中央部に於て相談熟議の
上れ斷然日本鐵道會社へ
切の事務を委托するとよ